

地域みんなが主役の博愛まつり 釣り師たちが渓流釣りを満喫 池田球場でインディゴ快勝



「深まる地域の絆」をテーマに5月25日、池田博愛会などが主催している第36回博愛まつりが箸蔵近隣公園周辺で開催されました。

開会宣言とともに約1000個の風船が放たれた後には、箸蔵小学校鼓笛隊による演奏や琉球太鼓などが披露されました。

また、バナナでシュートなどの体験アトラクションや児童書画展、各種バザーの出店もあり、豪華景品が当たるフィナーレの福投げでは多くの家族連れで賑わっていました。



第30回西祖谷あめご釣り大会が5月4日、西祖谷山村の祖谷川で開催され、家族連れら約150人が開始の合図とともに川に駆け寄り、大物を狙い竿を振りました。会場では事前にアメゴとマス約1万匹を放流。参加者は次々と清流の女王アメゴを釣り上げました。午後からは、小学生以下を対象にアメゴとマスのつかみ取り大会もあり、子どもたちは水しぶきを上げながら素早く泳ぐ魚を懸命に追いかけていました。また、第30回を記念し餅投げも行われ、大人も子どもも祖谷の自然を満喫しました。



四国アイランドリーグ plus の公式試合が5月3日、池田球場で開催され、543人の地元ファンが熱い声援を送りました。試合前には、地元少年野球チームの子どもたちが参加し、両監督へ花束や市特産品を贈呈。その後始球式が行われました。

高知ファイティングドッグスと対戦した徳島インディゴソックスは、5対0で勝利。2回にはホームランも飛び出し観客は大きな拍手を送っていました。また、豪華景品の当たる抽選会もあり、大人も子どもも熱戦を楽しみました。

# まちかどフォトニュース

おもしろいこと、珍しいもの、どんなことでもいいので耳よりな情報をお知らせください。  
三好市 秘書人事課 ☎ 72-7646



## にし阿波の大自然を駆け巡る

「第6回自転車王国とくしまツール・ド・にし阿波」が5月10日、県内外から自転車愛好家ら985人が参加し、にし阿波の大自然を駆け巡りました。コースは大歩危小歩危の景観を存分に満喫できる55㌔のコースをはじめ、にし阿波の高峰を横断する166㌔のコースなど4つ。コース内で最も標高の高い落合峠には、今回新たに看板とベンチが設置され、参加者は記念撮影をしたりしながら思い思いのペースでペダルをこいで完走を目指し、心地よい汗を流しました。

## 野菜摂取へベジ子ちゃん誕生



西部総合県民局では、西部圏域における食生活をはじめとする生活習慣の改善を図り、糖尿病などの生活習慣病の発症予防、重症化予防、肥満予防の推進を目指し、毎月24日を「にし阿波・野菜食べようデー」として、野菜摂取1日100gアップを推進しています。今回、にし阿波野菜普及啓発キャラクターを募集したところ三好高等学校の生徒が作成した「ベジ子ちゃん」が選ばれました。今後、にし阿波の野菜普及キャンペーンの中で活用されます。

## 平和への誓い新たに追悼式



平成27年度の戦没者追悼式が、市内各地区（井川地区5月21日、池田地区22日、西祖谷地区26日、三野地区27日、東祖谷地区28日）で行われ、遺族らが戦没者の冥福を祈るとともに平和への願いをこめて祭壇に白い菊の花を献花しました。西祖谷総合支所で行われた追悼式では、遺族ら約30人が参列し、来賓らの追悼の言葉のあと、西祖谷中3年の田中真依さんが「戦争の悲惨さを語り継ぎ、いつまでも平和な社会を守っていきます」と作文を朗読し、平和への誓いを新たにしました。

## 東祖谷小学校で大道芸に体験



笑学館館長の石川昭一さんによる大道芸体験が5月25日、東祖谷小学校の体育館で行われ、児童37人が参加しました。石川さんは、大道芸を通して夢を与えたいという思いで学校や老人ホームなどに訪問しています。体験会では、中国ゴマや皿まわしなどが披露された後、児童たちが実際に挑戦しました。初めは、悪戦苦闘していましたが、石川さんからコツを覚えてもらうと次第にできるようになり、児童らの歓声が体育館中に響きわたりました。

## 新緑の祖谷溪谷を五感で楽しむ

第11回大歩危祖谷温泉郷癒しの健康ウォークが5月31日に開催され、市内外から親子連れなど約100人がミシュラングリーンガイドで2つ星に輝いた祖谷溪谷を堪能しました。

コースは、池田町大利京田から祖谷ふれあい公園までの18キロ。参加者はそれぞれのペースで歩きながら爽やかな汗を流しました。また、コースの途中には、地元の野菜がたっぷり入った田舎汁がふるまわれました。ゴール後は大歩危祖谷温泉郷の温泉に入り、ウォーキングの疲れを癒しました。



## 無病息災を祈り 不動の火祭り

池田町西山の密厳寺で5月17日、不動の火祭りが行われ、県内外から約500人が訪れました。ホラ貝の音色の響く厳かな雰囲気の中、柴燈護摩供が始まり不動堂前の護摩壇に火がつけられると、辺り一面は白い煙で覆われ、大きな火柱となって燃え上がり、願い事が書かれた護摩木約1000本が次々と投げ入れられました。火が鎮ると焼けた護摩木の残り火の上を歩く「火渡り」が行われ、参拝者は無病息災や家内安全を祈り、裸足で渡って行きました。火渡りを終えた後には、福引きや餅投げがあり、多くの参拝者でにぎわいました。